

市民協働課で交付決定した事業(平成29年度)

No.	団体名	事業名	事業概要
1	新潟中央おやこ劇場	ワークショップ「誰も見たことのない生き物を作ろう」	ワークショップを通して子どもの見守り方を学びとともに、安心して子育てができる地域の人間関係をつくる。
2	特定非営利活動法人失語症支援活動の会	山崎明夫先生講演会	講演会を通して、一般人や福祉関係の方々から、失語症の病態以外の側面も含め広く理解してもらい、失語症の啓蒙を行う。

## 事業報告書

(1) 事業名	ワークショップ「誰も見たことのない生き物を作ろう」
(2) 事業の実施期間	平成29年4月3日～平成29年6月9日
(3) 事業の実施内容	<p>主に幼児の親子と子どもに関わる大人を対象に“人形劇団ひばたあむ”の永野むつみ氏、大澤直氏をお招きして、様々な道具や材料を自由に使って「誰も見たことのない生き物」を作るワークショップを行った。大人も子どもと一緒に楽しく工作を行う過程で、講師の助言をもらいながら子どもの見守り方、手助けの仕方を学んだ。また、後日に茶話会を開き、ワークショップの感想やその後の子育てへの思いなどを共有する場も設けた。</p> <p>【ワークショップ】 4月27日(木) 大畑少年センター・402 研修室 1回目 10:00～12:00 参加人数：29人 内訳：大人20人・子ども9人(3～4歳2人・1～2歳7人) 2回目 15:00～17:00 参加人数：24人 内訳：大人11人・子ども13人(3～5歳6人・0～2歳7人)</p> <p>【茶話会】 5月11日(木) 10:30～12:00 大畑少年センター・402 研修室 参加者内訳：親子4組(1歳1人・2歳3人)・大人5人</p>

## (4) 事業による成果及び今後の課題

## 【成果】

- ・ワークショップ後の茶話会を設けたことで、講師からの助言を日常の子育てに実践してみて感じたこと、子どもへの思いなどを受講者同士で共有することができ、幼児の母同士や、一緒に受講した地域の大人とも悩みを打ち明けられる関係性が生まれた。
- ・今回出会った幼児の親たちからは、とても真剣に一生懸命に子育てをしているという現実をうかがうことができたが、今後の地域交流の中でゆとりある子育ての実現のためには、安心して相談や協力ができる他者との関係づくりが重要であることを改めて認識した。

## ※受講者の感想

## &lt;ワークショップ&gt;

- ・1歳の息子はほとんど何もやらないしできないだろうし、私を中心になって一緒に楽しく作品が作れたらいいな。ただそう思って参加したワークショップでしたが、はっとする発見がたくさんあり、想像以上に有意義な時間を過ごすことができました。
- ・待ちの保育。見守る。そう思っていました。観守るだなんて。今まで、ただ見守っているときは、すんなり進まない子どもの動きに、モヤモヤイライラするばかりで、退屈で本当に嫌でした。それが観察の観る。目からウロコでした。なかなか出てこない蟬の孵化を、ワクワク観ていたのを思い出しました。これからそんな目線でみてあげられたら、子どもたちのいろんな所を引き出してあげられるのかな？と感じました。

## &lt;茶話会&gt;

- ・今日は長い時間色々話を聞いて下さってありがとうございました。今日の茶話会での皆さんの話を聞かせて頂いて「子育ては楽しんだ者勝ち」力まず子ども達の成長や変化を観守る事が今の幼少期の育児には大切なのだなあと感じました。実際に出来るのかと言われるとなかなか難しい所ですが、こうして皆さんとお話しした時間が私の心の糧になっています。今日はステキな時間をありがとうございました。
- ・今日はみなさんとおしゃべり会、楽しかったです！普段関わっているのは、大きくても小学生のお子さんがある先輩ママまでなので、成人されてるお子さんがいらっしゃる先輩たちのお話が聞けて良かったです。私は今までは上の子に対しては、まだ子どもなんだから…と自分自身に言い聞かせてましたが、結局最後は、子どもだけどもう4歳なのに…みたいに考えてイラッとしてしまっていたので、今日井部さんの言っていた、『まだ生まれて4年しか経ってない』が心に響きました。

## 【課題】

- ・茶話会が有意義だっただけに、子どもの体調などの理由で欠席が多かったのが悔やまれる。再度、ワークショップ受講者の交流の場を設けるとともに、異年齢の母どうしが出会い、ゆったり話す機会が持てるような企画を行っていきたい。
- ・子育てに不安を持つ周囲の親たちとのかかわりを意図的にもちながら、相談相手やお世話役となり、地域でのゆとりある子育てを実現するためには、ワークショップ受講者同士の関係性を継続しながら、今後も学習の場を設けるなどのサポートが必要です。

①

## 収 支 決 算 書

## I 収 入

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	摘 要
参加費	18,000	11,700	@300×39人(2歳以下無料)
補助金	91,000	90,000	新潟市地域活動補助金
自己資金	73,040	79,697	
合 計	182,040	181,397	

①

## 収 支 決 算 書

## Ⅱ 支 出

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	収入等の 充当先	摘 要
報償金	120,000	120,000	◎	講師謝礼(材料費込) 第1回目@30,000 ×2人分 第2回目@30,000×2人分
旅費	54,040	54,040	○	府中本町～新潟 @10,160×2人分× 往復 40,640 4/26(前泊)@6,700 ×2人分×1泊 13,400
食糧費	8,000	7,357		講師昼食代@1,000×2人分(4/27) 2,000 5/11茶話会お菓子・飲み物 代 5,357
合 計	182,040	181,397		

※ 「項目」「予算」欄には、申請時の「項目」「予算」額をそのまま記載してください。

※ 補助金収入以外に、参加費や寄附金等の収入がある事業を実施する場合は、

収入を充当する項目の「収入等の充当先」欄に「○」を記載してください。

また、自己負担額を充当する項目の「収入等の充当先」欄に「◎」を記載してください。

## 事業報告書

(1) 事業名	山崎明夫先生講演会
(2) 事業の実施期間	平成29年5月10日～平成30年2月26日
(3) 事業の実施内容  失語症を患いながらも、前向きに生活されている山崎明夫氏を招き講演をしていただいた。また、講演と併せて山崎氏を交えて意見交換会を行い、講演会のアンケートを取り感想をまとめて配布した。 日時：平成29年6月3日（土） 13：30～ 場所：東区プラザ2階多目的ホール 参加人数：約50人 【事業準備などの実施日】 平成29年5月10日（水）：事業所や失語症者へ向けて案内送付。 6月3日（土）：講演会当日 6月14日（水）：感想などまとめたものを送付 平成30年2月26日（月）：来年度の活動について検討会	
(4) 事業による成果及び今後の課題 参加者の感想より、「父の気持ちの参考になった」、「諦めなければ確実に進歩するという光が見えた」など、家庭内や社会的な場所での対応や、失語症者の障害に対する受容や生きる姿勢について考えることが出来たようである。これは講演会の狙い通りであり、お招きした山崎氏だけしか語る事の出来ないことである。また講演会後のバズセッションにおいてはリハビリを必要としている失語症の方が十分なりハビリを受ける機会がない事や、そのことによる社会活動への参加意欲低下といった話題に対して議論が活発になされた。しかし、趣味活動を通して旅行に行くという方もいて当事者の抱える問題は様々であることと感じた。しかしながら社会全体で失語症への理解や受け入れる体制を考えていくことは改めて必要だと感じた。今後の課題は、今後高齢化社会が進む日本において、脳血管障害の後遺症である失語症は確実に増えていく。社会全体の問題であり、その対応を行政だけではなく社会全体に関わる問題である事を啓発していく必要があると考える。	

2

収支決算書

I 収入

(単位：円)

項目	予算額	決算額	摘要
補助金	200,000	200,000	新潟市地域活動補助金
自己負担	200,900	205,023	法人負担金
合計	400,900	405,023	

②

## 収 支 決 算 書

## Ⅱ 支 出

(単位：円)

項 目	予算額	決算額	「事業 収入 等」の 充当先	摘 要
報償費	200,000	200,000		山崎明夫氏講師謝金（大分から新潟までの往復交通費・タクシー代・宿泊費1泊分を含む）
報償費	100,000	100,000		講師介助人謝金（大分から新潟までの交通費・タクシー代・宿泊費1泊分含む）
賃借料	6,000	7,600		東区プラザ施設代（5,200円） 備品代（2,400円）
製本印刷費	35,000	51,840		案内パンフレット300部、座談会資料300部、封筒300枚、アンケート300部印刷代
通信費	32,800	13,530		切手代
看板製作費	25,000	27,000		横断幕製作費
消耗品費	2,100	5,053		名札ケース、ラベルシール他事務用品
合 計	400,900	405,023		